

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名				主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A10 核兵器のない世界を目指して	20140586020901	●核兵器のない世界を目指してⅠ(核兵器とは何か)	和	E		中村 桂 子	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A10 核兵器のない世界を目指して	20140586021301	●核兵器のない世界を目指してⅠ(国際社会と平和)	和	E		近江 美 保	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A10 核兵器のない世界を目指して	20140586021701	●核兵器のない世界を目指してⅠ(被ばくと社会)	和	E		三根 眞 理子	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～

戻る



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586020901	科目番号	05860209
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してⅠ(核兵器とは何か)		
編集担当教員	中村 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 桂子, 梅林 宏道		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	nakamurak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター2F		
担当教員TEL	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー	火曜日2限（10：30～12：00）		
授業の概要及び位置づけ	このクラスでは、核兵器廃絶への道筋を考える際に不可欠な基礎知識として、核兵器の歴史と現状を総合的に俯瞰していきます。具体的には、核兵器とはいかなる特徴を持つ兵器か、世界の国々は核兵器をめぐってどのような政策をとってきたのか、いかなる軍備管理・軍縮努力が行われてきたのか（あるいはなかったのか）といった点を学びます。		
授業到達目標	核兵器をめぐる歴史と現状についての基本的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的な方途について学生一人一人が自分の考えを説明できるようになることを期待します。		
授業方法（学習指導法）	授業は基本的に配布資料に基づく講義形式ですが、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持てるようにします。また、授業の中では、国連文書や各国の外交政策文書など、国際社会のさまざまな場面で用いられた軍縮・軍備管理・安全保障に関する文書を読み解くことを通じて、学生一人一人が核兵器をめぐる最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取れるような授業を行います。受講人数にもよりますが、少人数グループに分かれてのディスカッションも予定します。		
授業内容	講義は、核兵器をめぐる現代世界の在り様、すなわち60年以上も続く核兵器を構造化した国際社会の実態を理解していくことから始めます。その具体的な検証として、まず広島・長崎への原爆投下の実際を含む核兵器の効果を振り返りながら、核兵器がどのような特性を持つ兵器か、各国の安全保障政策においていかなる役割を担ってきたのかを考えていきます。米国、ロシア、フランス、イギリス、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮といった核兵器を保有する国々の実態はどのようなものか、そしてその背景にある論理は何かを知るとともに、日本をはじめとする「核の傘」に依存する国々の現状とその論理も見ていきます。核軍縮・軍備管理に関するさまざまな国際的な枠組みとその課題についても概観します。国際社会の努力の実例として、「非核兵器地帯」など、核兵器に依存しない安全保障の枠組みの実際を学びつつ、近年の核兵器のない世界に向けた具体的な動向についても学んでいきます。		
	回	内容	
	1	授業の進め方について 現代における核兵器――政治と軍事を俯瞰する	
	2	核兵器の誕生とその特性――核時代の始まりから広島・長崎まで	
	3	核兵器の非人道性――被爆者の体験から	
	4	核兵器の非人道性――核実験の影響など	

	5	米国とロシアにおける核兵器体制①
	6	米国とロシアにおける核兵器体制②
	7	「核の傘」に依存する国々の論理
	8	フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理
	9	核不拡散体制の現状と課題
	10	日本の核政策
	11	世界の非核兵器地帯
	12	北朝鮮の核問題
	13	「核兵器のない世界」に向けた取り組み①
	14	「核兵器のない世界」に向けた取り組み②
	15	まとめ：核兵器廃絶に向けて「私たちにできること」
	16	
キーワード	核兵器、軍備管理、軍縮、抑止	
教科書・教材・参考書	参考書：梅林宏道『非核兵器地帯——核なき世界への道筋』（岩波書店）1,890円	
成績評価の方法・基準等	出席点および講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。	
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586021301	科目番号	05860213
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してⅠ(国際社会と平和)		
編集担当教員	近江 美保		
授業担当教員名(科目責任者)	近江 美保		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	近江 美保		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）	多文化、教育、経済、薬学、水産学部		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	事務局別館2階 209		
担当教員TEL	095-819-2917		
担当教員オフィスアワー	(初回の授業で告知します)		
授業の概要及び位置づけ	「核兵器」はなぜ生まれ、今も維持されているのか。その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学び、現代のグローバルな社会における平和とは何かを多様な視点から考えます。		
授業到達目標	①国際社会の特徴とそれを支えてきた考え方を理解すること、②国際社会をより平和にするためのこれまでの試みについて理解すること、③それらの知識をもとに、核兵器をとりまく国際社会のあり方について、自分なりの考え方を構築し、自分の言葉で説明できるようになること、を旨とします。		
授業方法（学習指導法）	授業は、講義形式にグループディスカッションや映像資料の視聴等を交えつつ進めます。また、リアクションペーパーにより、学生の疑問点や感想も授業に活かしていきたいと考えています。教科書の内容を踏まえたうえで、時事問題や関連分野の問題も取り上げますので、教科書の該当部分や授業中に配布した資料は、必ず事前に読んでおいてください。		
授業内容	紛争と平和を軸に国際社会とは何かを見ていきます。基本的にはテキストに沿って進めますが、必要に応じて、テキスト以外の資料を使用し、内容を補足します。		
	回	内容	
	1	はじめに：授業の進め方について 「国際社会」とは何か（1）：「国際」とは何か、国際社会と国家	
	2	「国際社会」とは何か（2）：国際社会と個人、国際社会とグローバル社会	
	3	国際社会と武力紛争（テキストpp.1-23）：「なぜ戦争をするの?」、武力紛争を取り巻く問題	
	4	国連と武力紛争（1）（テキストpp.25-31）：国連とは何か、国際法というルール	
	5	国連と武力紛争（2）（テキストpp.31-55）：国連による試み、集団安全保障と平和維持活動	
	6	武力紛争と国際法（1）（テキストpp.57-87）：国際人道法と国際刑事法	
	7	武力紛争と国際法（2）：女性の人権と国際刑事裁判所	
	8	「平和」とは何か(1)（テキストpp.89-108）：軍事的安全保障と人間の安全保障	
	9	「平和」とは何か(2)（テキストpp.109-129）：「人道的」な武力行使？	
	10	市民社会と人権（テキストpp.131-148）：「市民」とは何か、NGOの役割	
	11	国際社会と核兵器（テキストpp.149-166）：「使えない兵器」の価値	

	12	人間と平和（テキストpp.168-196）：和解は可能か？
	13	隣人との平和（テキストpp.199-214）：グローバル社会の中の「隣人」と「私」を考える
	14	「平和を創る」ということ(1)：私・私たちの生活と平和
	15	「平和を創る」ということ(2)：私・私たちに何ができるか
	16	レポート提出
キーワード	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権	
教科書・教材・参考書	テキスト：最上敏樹『いま平和とは』岩波書店 参考書：君島東彦『平和学を学ぶ人のために』世界思想社、日本平和学会編『平和を考えるための100冊＋α』法律文化社、その他の参考書については授業の中で随時紹介します。	
成績評価の方法・基準等	出席、ディスカッション等への参加、リアクションペーパーの提出等平常点：40％、期末レポート：60％。レポートの採点においては、①課題に対して明確に答えているか、②自分の意見を根拠に従い述べていることができるか、③意見が論理的に展開されているか、を基準とします。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	「なぜ核兵器がなくなるのか？」はとても大きな問題ですが、私たちの生活とはどう関係しているのかという視点から、一緒に考えていきましょう。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586021701	科目番号	05860217
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してⅠ(被ばくと社会)		
編集担当教員	三根 真理子		
授業担当教員名(科目責任者)	三根 真理子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三根 真理子, 奥野 正太郎, 関口 達夫, 平野 伸人		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	mmine@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部原研 2 階原研情報室		
担当教員TEL	095-819-7127		
担当教員オフィスアワー	火曜日17：00～19：00		
授業の概要及び位置づけ	長崎における原爆被爆の歴史、報道に見える社会への影響、被爆体験継承の現状を基礎知識として学び、被爆体験継承における問題点について考える力を養う。		
授業到達目標	① 原爆の歴史を理解できる。 ② 体験継承の歴史を理解できる。 ③ 報道における社会の動きを理解できる。 ④ 歴史や社会の動きを基礎知識として体験継承における問題点を考えることができる。		
授業方法（学習指導法）	4人の講師がそれぞれの専門分野から見た被ばくと社会について解説する。学生はそれを受けて各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業内容	回	内容	
	1	(9/ 29) 三根真理子：被ばくと社会の概要	
	2	(10/6) 奥野正太郎：原爆と歴史（１）	
	3	(10/20) 奥野正太郎：原爆と歴史（２）	
	4	(10/27) 奥野正太郎：原爆と歴史（３）	
	5	(11/ 10) 三根真理子：歴史に関するまとめ（学生の意見交換）	
	6	(11/17) 関口達夫：報道に見える被ばくと社会（１）	
	7	(12/1) 関口達夫：報道に見える被ばくと社会（２）	
	8	(12/8) 関口達夫：報道に見える被ばくと社会（３）	
	9	(12/ 15) 三根真理子：報道に関するまとめ（学生の意見交換）	
	10	(12/ 22) 三根真理子：被爆体験と人生	
	11	(1/5) 平野伸人：被爆二世と被爆体験の継承	
	12	(1/19) 平野伸人：高校生の平和活動と被爆体験継承活動（１）	
	13	(1/26) 平野伸人：高校生の平和活動と被爆体験継承活動（２）	
	14	(1/27) 三根真理子：被爆体験継承に関するまとめ（学生の意見交換）	

	15	(2/ 2) 三根真理子：まとめ（学生の意見交換）
	16	
キーワード	原爆、報道、被爆体験継承	
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は紹介する。	
成績評価の方法・基準等	出席２０、課題２０、意見交換２０、最終レポート４０。なお講義の順番は変更になることがある。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	自分で調べ、積極的にグループワークに参加しよう。	

